

# 下山手遺跡第6次調査 現地説明会資料

下山手遺跡は中央区下山手通 8 丁目に広がる遺跡で、弥生時代～鎌倉時代にかけて営まれた集落跡です。現標高は 20m 前後で、東側には花隈城跡が隣接しています。

今回の発掘調査（第6次調査）は、約 1,900 m<sup>2</sup> を対象に 10 月下旬から実施しています。その結果、古墳時代～奈良時代と鎌倉時代頃の集落跡を確認しました。

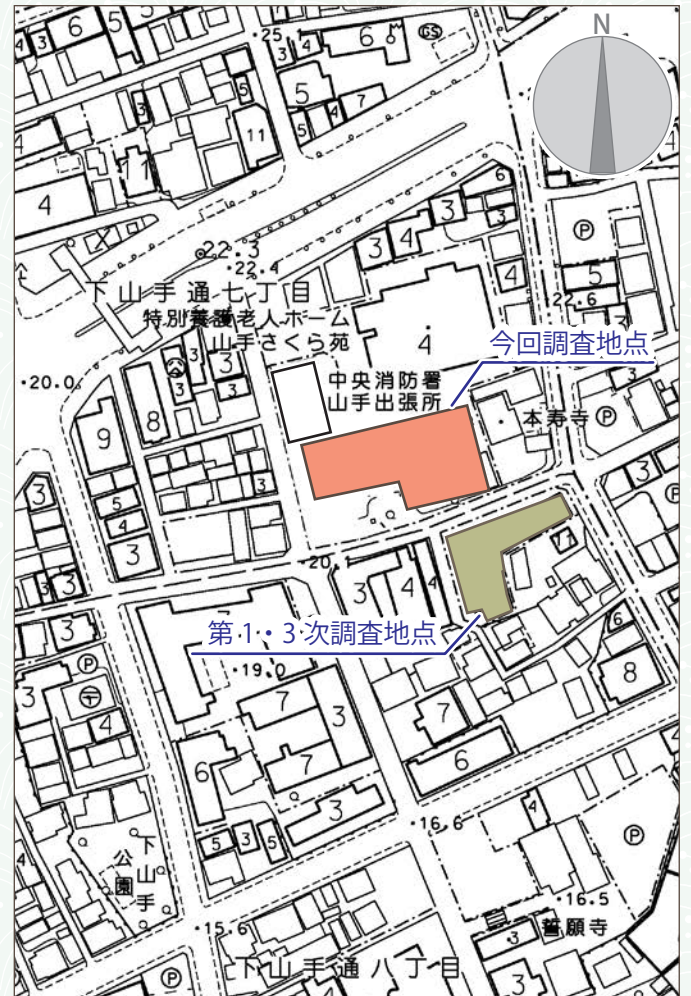
古墳時代の遺構として、後期（6世紀中頃～後半）の竪穴建物と掘立柱建物が、そして奈良時代の土坑が見つっています。

古墳時代の方形の竪穴建物には、壁際に煮炊きをするためのカマドが備え付けられてい

ます。また掘立柱建物には、南東部で検出した側柱の柱穴のみで構成される建物 SB01 と、北側で検出した縦柱建物の建物 SB02 があります。

今回の調査区の南側で以前に行われた調査でも、古墳時代後期の掘立柱建物が見つっており、竪穴建物と掘立柱建物で構成された集落であったことがわかりました。

以上のように、今回の発掘調査では、古墳時代の集落が北側へ広がっていることがわかりました。また、周辺には弥生時代や奈良時代の集落も存在することもわかりました。



発掘調査地点位置図 (右の図は 1/2,500)

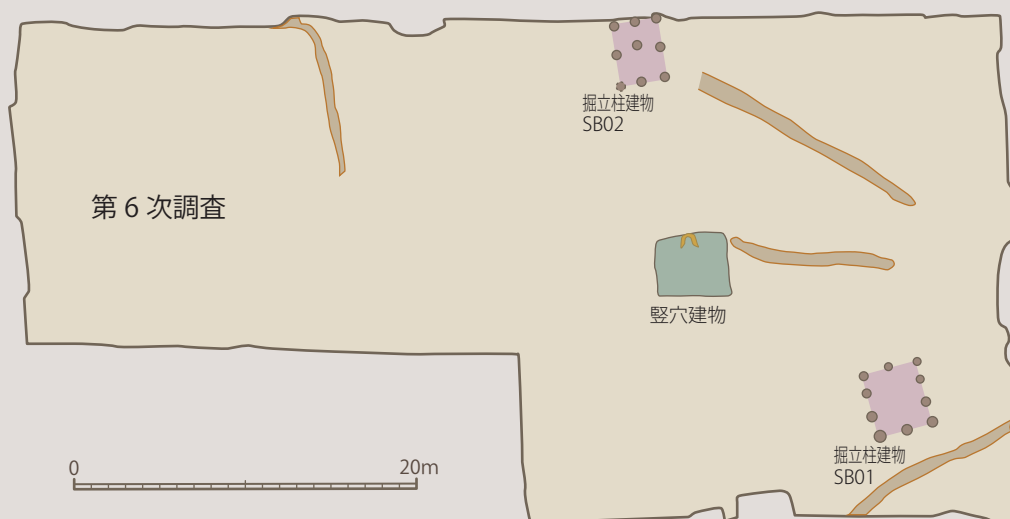




調査地全景



竪穴建物



竪穴建物のカマド  
土師器高坏を倒立させて、支脚にしている

